

# 日本YMCAにおけるスポーツの普及と展開に関する研究

服 部 宏 治

広島国際大学

## A Study on the Promotion and Development of Sports at YMCA in Japan

Koji HATTORI

Hiroshima International University

**Abstract:** This study aims to provide a demonstrative account of the promotion and development of physical work, which was run by YMCAs in Japan's major cities from the Taisho Era to the Showa Era before World War II.

Results of this study revealed that the various branches of the YMCA acted as one of the representative nuclei of social sports in cities throughout Japan from the Taisho Era to the Showa Era before World War II. In other words, the YMCA ensured to members a location for regular sporting activities as physical work and ran athletic meetings to demonstrate the various types of skills that members developed during these activities. By holding demonstrations, they allowed members of the public to watch a range of sports and apparatus gymnastics, in the process introducing and advertising sports. Furthermore, they increased the number of sports fans by actively instructing school students and teachers on these sports, and increased the number of people playing sports by training coaches. This method of physical work

that was conducted by the various branches of the YMCA to promote and develop sports has provided a range of suggestions in considering policies for promoting and developing sports in Japan.

### 序章 本研究の目的と意義

本研究は、日本における近代スポーツの普及と展開過程において日本の「YMCA」(Young Men's Christian Association=基督教青年会)が果たした役割の一端を明らかにするために、大正期から昭和期(戦前)に日本のYMCAが行った体育事業の実態を解明することを目的とした。

対象としたYMCAは、今日まで活動を続けている都市YMCAの中から、日本において早くから設立され、且つ主要都市においてその地域の体育的活動の先駆的、指導的役割を担っていたと思われる全国5カ所のYMCA(東京、大阪、横浜、神戸、京都)である。ここで、YMCAが行った具体的な体育事業の展開過程を明らかにしていくことは、近代日本のスポーツ普及と展開においてYMCAが果たした役割の一端を明らかにすることになるであろう。さらに、都市YMCAの体育事業を解明

することは、近代から現代にかけての社会体育の普及・発展のための方策を検討するいくつかの視点を示すことにもつながると考える。

## 第1章 日本におけるYMCA設立と活動

1884年6月6日、ロンドンの呉服商店の店員であったウィリアムス（George Williams）は墮落した生活を送っていた多くの同僚をみて、彼らを悔い改めさせ、キリスト教によって正しく生きるよう導くためにYMCAを設立した。YMCAの初期の活動は、会員のための祈祷会や聖書研究、宗教的事業や集会などであった。これらの活動は、北米にも伝わり、1851年12月ボストンにおいてYMCAが設立された。北米での活動が広がりを見せる中で、次第に体育事業に関心が持たれはじめ事業の重要な柱の一つとなった。

明治期において早くから設立された日本各地のYMCAは、アメリカからの宣教師や英語教師、さらには留学から帰朝した若い教会牧師・信徒たちによって設立された。活動の目的は、キリスト教の信仰と伝播のほかに青年の心霊、知識、社交、及び体育上の改良を図ることなどであった。しかし、この時期の活動はキリスト教伝道のための講演会や聖書研究会などが主であった。YMCAの活動が宗教的な活動に限定されていた背景には、YMCAが独自の会館（施設）を有していなかったことが挙げられる。このため、事業を充実させていくためには自らが自由に使える会館が必要となった。

## 第2章 「体育事業」の黎明期

日本の各都市YMCAは北米からの資金援助を得て会館を建設し、これに前後して法人の認可を受け、公にその存在を認められる組織となった。そしてこの会館を基盤にして宗教部や教育部、社交部などの事業部門が中心となり、学術講演や聖書通読、英語学校の運営など、様々な事業が開始された。

一方、1897年（明治30）、東京帝国大学、第一高等学校など、14の大学専門学校に組織されてい

た学生YMCAの代表が日本学生YMCA同盟を結成し、これに刺激され、1901年（明治34）7月、東京、大阪、横浜、神戸の各都市YMCAは日本都市YMCA同盟を結成した。

日本学生YMCA同盟と日本都市YMCA同盟は1903年（明治36）7月両者を構成する会員に重複する者が多く、また、財政的基盤（北米YMCAからの資金援助）が共通であったことなどから合体し、日本YMCA同盟が成立した。

そして、日本YMCA同盟の第4回総会において、体育事業の振興が決議され、これ以降、会館を利用した体育事業が活発に行われることとなった。

## 第3章 「体育事業」の普及期

体育事業を行うためには独自の施設が必要であり、各YMCAは独自の「屋内スポーツ施設」を設置することになる。東京YMCAでは第2次会館建設に際し、会館とは独立して「屋内スポーツ施設」が建てられた（1917年）。また、当時としては珍しく室内プールを有していた。大阪YMCAにおいては、「屋内スポーツ施設」は会館建設当初設置してなかったが、仮会館ではホールを利用して体育活動を行い、新会館では専用「屋内スポーツ施設」を設置した（1924年）。横浜YMCAは講堂と兼用であった（1916年）。神戸YMCAは2期工事において専用の「屋内スポーツ施設」を設置した（1922年）。京都YMCAは明治期より専用の「屋内スポーツ施設」を有していたが、非常に狭いものであった。しかし、ボーリングアレーを設置するなど独自の施設を有していた。

各YMCAとも「屋内スポーツ施設」の設置によって、様々な体育事業が可能になっていく。そして、各都市YMCAには、この体育事業の指導的役割を担った人物が存在していた。また、バスケットボールやバレーボールなど新しい種目を広めるために行われた指導者講習会や出張指導が、主に学校の教職員や生徒を対象に広く行われていた。それによって新種目の学校での普及が可能となった。このことは、学校を卒業してからの継続的な運動を期待させるものであった。

## 第4章 「体育事業」の発展期

新しく「屋内スポーツ施設」が設置されると、ここを中心に体育事業が展開されるようになった。各YMCAは、施設利用のために「利用時間割」を作成し、会員同士でつくったクラブやクラスによる活動を行った。ビジネスマンのためのクラスは、仕事のある者のために、仕事帰りに立ち寄って運動に親しんでもらうために開設されたものであり、女性のためのクラスやクラブ、夜学校や英語学校の生徒や大学生でつくるクラブや企業クラブも次々につくられた。東京YMCAのプールは、オリンピック選手の練習の場としても利用された。さらに、利用するクラブの増加とともにレスリングやフェンシング、バドミントン、デンマーク体操など新種目のクラスが開設されていった。京都YMCAでは、ボーリングアレーが設置され当時としては非常に珍しく多くの人に利用された。

また、バスケットボールの大会やリーグ戦は大正期においてブラウン（Franklin H. Brown）たちがYMCAを中心に進め、昭和に入り次第に大学チームや中等学校、会員クラブや企業、さらには女子校の大会開催と広がりを見せるようになった。

さらに、東京YMCAや大阪YMCA、横浜YMCAは、会員やその家族あるいは彼らが所属する団体・学校の関係者を対象に「実演会」を開催した。この「実演会」はYMCAの宣伝及び会員募集をも意味しており、バスケットボールやバレーボールなどの試合や器械体操、新種目の紹介などを行い、一般市民にも参観を促した。

## 終章 日本の近代スポーツの普及と展開 に対するYMCA体育事業の意義

本稿が考察の対象とした各YMCA（東京、大阪、横浜、神戸、京都）が行った体育事業は、各都市のYMCAに所属する会員を対象とし、会員同士でクラブをつくったり、会員を対象にクラスを開講したりした。これは、東京、大阪、横浜、神戸、京都の各YMCAが会館に附属して独自の「屋内スポーツ施設」を設置し、継続的な活動の場が確保

できるようになることで実現した。この「屋内スポーツ施設」の設置は、これまで、天候や日没などで制約を受けていた屋外スポーツ施設と違い、天候に左右されず仕事が終わった平日の夜間にもスポーツができるということであり、スポーツをすることのできる機会が大幅に拡大したことを意味していた。また、東京YMCAのプールは、日本で唯一の室内プールであったため、極東選手権大会の代表選手を何人も輩出し、クロールの泳法研究なども行われた。そして会員の利用以外にオリンピック代表選手の練習場所としても活用され、全国的な競技会も開催されるなど、日本水泳界にとって貴重な活動場所の一つであった。

YMCAの「屋内スポーツ施設」設置に伴う体育事業は、学生、生徒や女性のスポーツ環境を充実させるだけでなく、勤労者にもスポーツ活動を行う環境を提供した。

また、バスケットボールやバレーボールは、大正期にYMCAが体育事業として会員たちを対象に紹介し普及に努めた。日本バスケットボール史ならびにバレーボール史において、これらYMCAの体育事業は会員のみならず中等学校や大学、企業、さらには女性への普及の観点からも重要な役割を果たしているといえる。昭和に入り、日本の各YMCAは、バスケットボールやバレーボール以外にも新しい種目（デンマーク体操やバドミントン、フェンシング、ハンドボール、レスリング、ボクシング、スキーなど）を、「屋内スポーツ施設」利用のクラスや講習会で紹介し、その普及に努めた。そうしたYMCAの活動は、戦前において多くのスポーツ種目の存在を一般の人たちにも知らしめた。

さらに、YMCAの会員達はバスケットボールやバレーボール等の大会に参加し、また自ら大会を開催することによって、その種目の普及にも貢献した。大会や競技会の開催にあたっては当初、YMCAが常に優勝もしくは上位の成績を収め、他団体の目標として存在し、その指導的役割を担っていた。これらの大会や競技会は、次第に参加団体数を増やし、YMCA内部の大会から市、県レベルの大会へと拡大し、さらには全国的な組織が設立されると共に全国的大会へと発展していった。

一方、会員やその家族あるいは会員以外の人たちを対象として、バスケットボールやバレーボールの部員、器械体操部員たちが、「体育実演会」や「エキジビション」を開催した。このような催しには学校の教職員たちも招待され、多くの市民とともにこれらの種目を宣伝した。そして、バスケットボールやバレーボールの普及のために、YMCAの外へ出て、学生や生徒の指導のみならず、学校教職員や会社の社員を対象とした講習会を開催した。つまり、学校の教職員や会社を対象にしたこのような催し（「体育実演会」や講習会）は、学校や会社での普及を視野に入れたものであり、各YMCAにとっては、生徒たちの就学中の活動はもちろん卒業後における継続的な活動を期待することができた。

このように、東京、大阪、横浜、神戸、京都の各YMCAは、大正期から昭和期（戦前）において、各都市における社会体育の代表的な推進母体の一つであった。YMCAは体育事業として、「定期的な体育活動」の場を確保し、そこで培った各種目の技を披露するための「競技会」を実施した。そして「実演会」を開くことで一般の人たちにも各種競技や器械体操などを見せて競技を紹介・宣伝した。さらに積極的に学校の生徒や教職員に指導することで愛好者を増やし、指導者を育成することで競技人口をも増やしていった。スポーツを普及、発展させるために各YMCAが行ったこれらの体育事業の手法は、今日のスポーツの普及、発展のための方策を考える上でも様々な示唆をあたえてくれる。

## 史料及び参考文献

### 主要史料

- 大阪基督教青年会大阪青年1916年（大正5）～1934年（昭和9）。
- 京都基督教青年会京都青年1917年（大正6）～1939年（昭和14）。
- 神戸基督教青年会神戸青年1916年（大正5）～1937年（昭和12）。
- 東京基督教青年会東京青年 1905年（明治38）～1940年（昭和15）。
- 横浜基督教青年会横浜青年1918年（大正7）～1937年（昭和12）。

これらの機関誌は震災等で多くの号を焼失しているが、各YMCAに保存してあるものを利用した。

### 主要参考文献

- 大和久泰太郎（1984）横浜YMCA百年史（財）横浜キリスト教青年会。
- 京都YMCA史編纂委員会（2005）京都YMCA史（財）京都キリスト教青年会。
- 神戸キリスト教青年会（1969）KOBHEYMCA70年の歩み。
- 斉藤実（1980）東京キリスト教青年会百年史（財）東京キリスト教青年会。
- 世良田元（1982）大阪YMCA史大阪キリスト教青年会。
- 奈良常五郎（1959）日本YMCA史日本YMCA同盟。
- C. Howard Hopkins. (1951) 『History of the Y. M. C. A. in North America』 Association Press.